

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	プレイジム		
○保護者評価実施期間	2025年9月3日		2025年9月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2025年9月3日		2025年9月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性理解に基づく専門性の高い支援 保護者評価では「特性を十分理解している」「最も専門性を感ずる」と全員が肯定的に回答しており、事業所の最大の強みといえる。標準化検査・行動観察・日々の記録を組み合わせたアセスメントにより、子どもの状態を多面的に把握している。個別支援計画もニーズに沿って作成され、3か月ごとの見直しにより変化に迅速に対応できる体制が整っている。支援内容は固定化せず、子どもの状態に応じて柔軟に調整されている点も高く評価されている。	利用開始時に標準化検査と詳細な観察を行い、保護者面談で得た情報と統合して支援計画を作成している。計画作成時には複数職員が参加し、支援内容の妥当性を確認する仕組みを整えている。日々の療育記録をもとに改善点を検討し、必要に応じてプログラムを変更するなど、固定化を防ぐ工夫も行っている。保護者とは同伴支援や日々の相談対応を通じて共通理解を深め、家庭と連携した支援を意識的に実施している。	アセスメントの質をさらに高めるため、記録の書き方や評価基準の統一が求められる。特に職員間で記録の精度に差があるとの自己評価があり、研修や記録フォーマットの改善が必要である。また、本人支援に偏りがちな計画内容について、移行支援・地域連携の視点を強化することで、より包括的な支援が可能となる。
2	安心して通える環境づくりと構造化された空間 保護者評価では「清潔で心地よい」「構造化されていてわかりやすい」「安心して通えている」と全員が肯定的に回答している。大小の部屋を使い分け、子どもの状態に応じて環境調整ができる点が強みである。手洗いの動線や視覚的手順の提示など、子どもが自立しやすい環境づくりが徹底されている。個別療育を中心とした落ち着いた空間が確保されており、子どもが安心して活動できる環境が整っている。	パーテーションや部屋の配置を工夫し、活動内容が視覚的に理解しやすい構造化を行っている。清掃や環境整備を毎日実施し、衛生的で落ち着いた空間を維持している。必要に応じて個別の部屋を使用できるように、利用人数を調整し、子どもが安心して過ごせる環境を確保している。視覚支援や手順提示など、障害特性に応じた環境調整を丁寧に行い、子どもの自立を促す工夫も継続している。	環境面の強みをさらに活かすためには、環境調整の意図や工夫を保護者により丁寧に説明し、家庭での再現性を高める取り組みが有効である。安全面では、不審者対応や避難訓練などを、実践的な訓練の頻度を増やすことで、環境の安全性をさらに高めることが期待される。
3	保護者支援の充実と相談しやすい体制 保護者評価では「相談しやすい」「共感的に対応してくれる」「家族支援が充実している」と全員が肯定的に回答している。家族支援講座や外部講演会の開催など、家族支援の機会が豊富で、保護者同士の交流の場も設けられている。日々の相談対応や面談を通じて、子どもの状況や課題を共有し、家庭と事業所が一体となって支援を進めている点が大きな強みである。	契約時・計画更新時・日々の療育の中で保護者と丁寧に対話し、子どもの状況を共有する体制を整えている。相談内容に応じて適切な職員が助言ができるよう、職員間で情報共有を行う仕組みも整備されている。家族支援プログラムや講演会を定期的に開催し、保護者が学びやすい環境を提供している。茶話会など、保護者同士が気軽に交流できる場を設け、孤立感の軽減にも努めている。	相談体制は整っているものの、事故時の対応や緊急時の手順については説明が不足しているとの意見があり、平時からの周知強化が必要である。また、通信やSNSの発信頻度を高めることで、保護者が事業所の取り組みを把握しやすくなり、安心感の向上につながる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	PDCAの振り返り不足と業務改善の仕組みの弱さ 自己評価では「振り返りが不十分」との回答があり、PDCAの「C(チェック)」が十分に機能していないことが課題として示されている。日々のミーティングで意見交換は行われているものの、体系的な振り返りや改善策の検討が不足している。第三者評価を受けていない点も、客観的な視点を取り入れにくい要因となっている。改善の仕組みが属人的で、組織的な改善サイクルが弱い状況である。	個別療育中心で職員が一人で支援を行う時間が多く、振り返りの時間が確保しにくい構造が背景にある。また、業務改善のための会議が形式化しており、具体的な改善策の検討や実行が十分に行われていない。記録の質にばらつきがあることも、振り返りの精度を下げる要因となっている。	振り返りの時間を確保するため、短時間で実施できる振り返りフォーマットの導入などが有効である。記録の標準化や職員研修を通じて、振り返りの質を高めることも必要である。改善策の実行状況を可視化し、PDCAが循環する仕組みを整えることで、組織的な改善体制が強化される。
2	集団活動・地域連携の不足 個別療育を中心とする体制のため、集団活動や地域交流の機会がほとんどない点が弱みとして挙げられる。保護者からは「なくても問題ない」との声もあるが、ガイドライン上求められる地域連携・移行支援の観点では不足が見られる。こども園や学校との連携が十分に取れない場面もあり、情報共有が保護者経由に偏ることがある。	個別療育を重視する事業所方針や、利用人数の少なさが集団活動の実施を難しくしている。こども園との連携が手薄になることがあるのは、時間的制約や担当者の負担が大きいことが背景にある。	小規模なペア活動やミニグループ活動など、個別療育の延長で実施できる集団活動を導入することで、無理のない範囲で社会性支援を強化できる。地域連携については、こども園との定期的な情報交換の機会を設け、保護者経由に頼らない連携体制を整えることが必要である。地域の事業所との合同研修や交流会を実施することで、地域に開かれた運営にもつながる。

3	<p>安全管理・緊急時対応の実践不足</p> <p>マニュアルは整備されているものの、「実際に想定した訓練が少ない」「不審者対応の研修が不足している」など、実践面の弱さが指摘されている。保護者評価でも「訓練が十分でない」との回答があり、安全管理の実効性に課題がある。BCPは策定されているが、救出訓練などの実施が不十分で、緊急時の対応力にばらつきが生じる可能性がある。</p>	<p>個別療育中心で職員が分散しているため、全員が参加する訓練の実施が難しい。マニュアルが書面中心で、実践的な訓練に落とし込む仕組みが整っていない。不審者対応や災害時の動線確認など、現場での実地訓練が不足していることも課題の背景にある。</p>	<p>避難・不審者対応・事故対応などの実践的訓練を定期的実施する必要がある。マニュアルを職員が使いやすい形に再整理し、シミュレーション形式の研修を導入することで、対応力を高められる。保護者への周知も強化し、安全計画をわかりやすく伝えることで安心感を高める。ヒヤリハットの基準を統一し、共有の質を高めることも再発防止に有効である。</p>
---	---	--	--

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名
プレイジム

公表日 2026/2/12

利用児童数 7名

回収数 7

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	0	0	0	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7	0	0	0	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	0	0	0	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	0	0	0	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7	0	0	0	・子ども理解の深さは、プレイジムが最も重視する支援者スキルです。今後も職員の専門性向上に努めていきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7	0	0	0	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7	0	0	0	・3ヶ月ごとの見直し時に話ができていると思います。 ・プレイジムでは、制度上の更新期間よりも短い間隔で個別支援計画を更新し、子どもの変化に迅速に対応できる体制を整えています。今後も保護者と連携し、柔軟な見直しを継続していきます。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	0	0	1	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7	0	0	0	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	0	0	0	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	3	1	0	・そのような機会はありませんが、無くても問題ありません。 ・本事業所の支援の特徴を踏まえ、地域との交流活動は実施していません。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	0	0	0	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	0	0	0	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	0	0	0	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7	0	0	0	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	0	0	0	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	0	0	0	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	0	0	0	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	0	0	1		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6	1	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	0	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	2	1	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	0	0	2		・万が一の際にも安心していただけるよう、事故時の対応手順などを平時から丁寧にお伝えするようにします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	0	0	0	・大変満足しています。 ・いつもありがとうございます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ブレイジム		公表日 2026/2/12			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	・ 大小の部屋があり、必要に応じて部屋を使う事ができている。 ・ 個別なのでスペースの確保はできている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	・ 常に配置基準を満たしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	・ 必要に応じて部屋の配置やパーテーションで子どもにわかりやすいよう工夫している。出来るだけ自立して身支度ができるよう、情報伝達や環境調整を行っている。 ・ 手洗いの際に背が低くても蛇口に届き自分で行えるような環境設定や自分で手洗いの手順を見て分かるような配慮もある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	・ 毎日清掃され、心地良く過ごせるよう配置なども工夫している。 ・ 運動活動と机上活動、それぞれに合った空間がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	・ 利用児を少なくする事で、必要な部屋を使用できている。 ・ 空間を自由に使えるような時間の割り振りになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	2	・ 個別支援会議などで職員から意見をもらうとともに、日々の療育での教材や環境設定、関わりなどについて意見交換を行っている。	・ 日々のミーティングで業務改善についての意見を言える場が設けられているが、振り返りは不十分である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・ 事後評価説明、モニタリングの内容を施設内で共有し、日々の療育、支援内容に反映できるように努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・ 日々のミーティングで意見を言える機会が日常的に設けられている。事務手順や安全確保、衛生面などの意見について取り入れられている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4	・ 第三者評価は受けていないが、見学者から意見、身体拘束や虐待防止について外部委員からの意見などを取り入れる機会はある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	・ 各職員に必要な研修への参加の促しや、職員が受講したい研修への参加費補助などもある。 ・ 法人内で職員同士での研修会の機会もある。 ・ 外部研修の受講内容は職員間で施設内研修として共有されている。担当月を決めて、施設内での研修も実施している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	・ 職員会議にて検討し作成している。 ・ 事業所ホームページで公開するとともに、事業所リーフレットにも掲載し、利用者、関連機関への周知を図っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	・ こどものニーズは実際の活動場面の観察、各種検査によってアセスメントし、保護者のニーズと合わせて事業所で行える支援を支援計画として作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	・ 個別支援会議（支援計画作成会議）で必ずスタッフが意見を出し合って作成するように工夫されている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	・ 会議で共有し、議事録やモニタリングを回覧されている。 ・ 計画更新時期だけでなく、計画に沿った支援かを職員同士で検討する機会がある。	

	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	0	5		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		・そのような機会がない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	・療育に同伴してもらおうようにしており、その都度状況や課題を伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	・事業所で家族支援プログラムがあり、定期的に家族支援が実施されている。 ・事業所主催の外部向けの講演会への参加の機会も提供し、保護者などの関係者は無料にするなど参加しやすくしている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	・利用相談時や契約時、支援計画見直し時などに説明されている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	・支援計画更新時期に面談を行うとともに、日頃から相談などを受けている。 ・面談にて複数回確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	・原案の検討も行い、本案も説明されている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	・療育の時やノートなども活用して日々の子育ての悩みなどに対する相談に応じるようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	・保護者同士が気軽に話せる茶話会的な場を設けるなどの機会は実施されている。	・きょうだい同士の交流はない。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	・相談体制についての説明を契約時に行い、相談の申し入れに迅速に対応している。 ・対面だけでなく電話、メールなど様々な媒体での対応を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0		・事業所で行う講演会や懇談会などの情報を発信しているが、頻度は少ない。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	・個人情報ガイドラインに基づき、留意している。 ・セルフチェックシートにて職員各自で意識できるようにしている。 ・職員間で声かけを行うとともに、個人情報に関するヒヤリハットなども作成している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	・視覚的に手順を示すなどの配慮を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		
非 常 時 等	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		・マニュアルはあるが、発生を想定した訓練を実施していないものもある。 ・書面や会議上での研修が多く、実際に想定した訓練の機会は少ないように思う。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	・災害時用伝言ダイヤルについての情報を得る機会があり実際に体験することもできた。 ・災害が起きた場合の利用者への連絡手段なども法人内で行えるように情報保護に関する規約を変更することも行った。	・BCPを策定されているが救出などの訓練は行っていない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	・予防接種の確認はしていないが、てんかんや服薬等の状況を個人情報シートにて確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	0	5	・個人情報シートにおいて明確な食物アレルギーの利用児はいないので、医師の指示書に基づく対応はしていない。小麦粉粘土を行う場合などではその都度、保護者に確認している。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	・利用開始時に、必ず標準化された検査を用いた検査、行動観察を中心とするインフォーマルアセスメントを実施するとともに、日々、必要な再検査、療育記録の整理などを行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	領域を踏まえた計画を作成しているが、本人支援に重点が置かれており、移行支援や地域連携に関する支援内容は、まだ十分ではない。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	0	5	個別療育が中心であり、日々の具体的なプログラム立案は個人で行うことが多いが、助言が必要な場合には相談しながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	・実施したプログラムを振り返り、必要に応じて変更している。 ・担当支援員だけでなく、他の職員からもプログラムのアイデアについて相談できる環境がある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	0	5	・個別療育での支援が中心であり、集団療育を実施していない。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	0	5	・個別療育のため、他の職員と連携することは少ないが、安全面での連携は行っている。 ・必要に応じて各職員の専門性を活かした助言、配慮などをミーティングで共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	0	5	・毎回実施していないが、必要に応じて他の職員に相談、意見を求めることはある。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	・記録の中から、次回の改善点などを考察している。	・療育の内容や職員間で差があると思う。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	・児童発達管理責任者が定期的にモニタリングを実施し、改善点などの見直しを行っている。 ・モニタリング期間が設けられ職員間に周知されていることで、見直しの判断などを意識しやすくなっている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	・可能な限り児童発達管理責任者、担当者が参加している。	・オンラインでの参加など、それぞれが時間を合わせて参加しやすくなっているが療育時間の関係で担当支援員の参加が難しいことがある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	・事業所の個別支援計画を学校、子ども園などと共有している。 ・契約時に保護者の同意を得て連携できるよう整えている。	・事業所として連携を取るべき必要性を感じる場面が少ない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	・個別支援計画を保護者を通して渡している。気になることがある時には、電話などで連携を図っている。	・子ども園との連携に手が回っていないときもある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	・必要に応じて情報共有書類、動画を作成している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	(31は、事業所のみ回答)				・そのような機会がない。	

寺 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	2		・事業所内外の危険個所の点検など定期的に行われていることもあるが、不審者侵入対応など研修や訓練が行われていないものもある。年間日程に組み込む必要がある。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	・契約時に避難場所等の確認を行っている。 ・駐車スペースでの行動や気象警報での判断、火災の場合など周知している。	・不審者対応などの周知についてはどのようにしていくか検討が必要。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	・ミーティングの場で職員間で共有し、再発防止についても検討している。	・どの状況をヒヤリハットと考えるかの職員間の認識を合わせることが難しいこともある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	・定期的もしくは外部研修の伝達講習等、必要に応じて研修会を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	・やむを得ず、身体拘束を行う場合は、事業所内で改善への検討を行うとともに、支援計画に記載し、利用者に十分に説明し、同意を得ている。	